

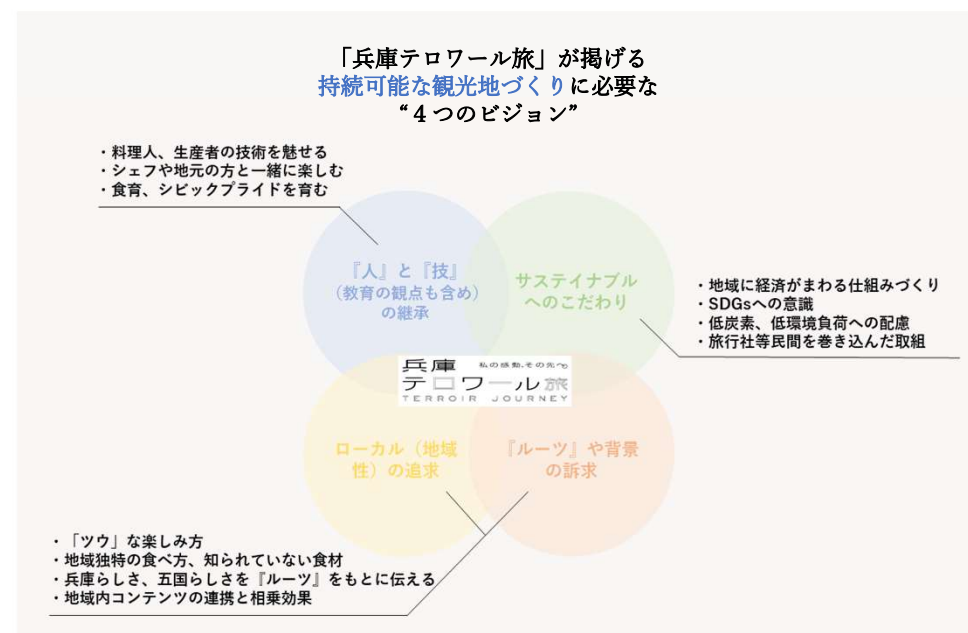


さあ、“兵庫テロワール旅”へ出かけよう。

## 「兵庫テロワール旅」 -持続可能な観光の実現に向けて-

私たちは「住民が誇りをもって住み続けたいと願う豊かな地域社会の実現を目指す」という理念のもと、「兵庫テロワール旅」という新たな旅ブランドを通じて、**持続可能な観光地づくり**に取り組んでいます。

地域にとっては「あたりまえ」だけど、実は「あたりまえじゃない」**各地域に根差した食や文化**が県内には数多く存在しています。それらを旅を通じて味わい楽しみながら、生まれたルーツや背景を探り、受け継いできた**人の想いや技術**を体感する。「兵庫テロワール旅」は、旅行者と地域の人々との繋がりを通じて、**持続可能な食や文化**について体験し考える機会を提供することで、“ローカル”で“サステイナブル”なツーリズムを推進していきます。



## “ローカル”で“サステイナブル”な ツーリズムの推進

「兵庫テロワール旅」がもたらす提供価値をより効果的なものとするため、まずは地域住民や県内事業者が取組を知ってもらい積極的な参画を促していきます。そして、徐々に取組の輪を広げ、民間企業や旅行者など多様なステークホルダーと良好な関係を築き、事業展開に向けて包摂的な協働を進めます。

具体的には、事業企画の段階において地元生産者やシェフの起用など、食サプライチェーンのローカル化を促進。移動・運搬手段においてはJR西日本やバス事業者と連携し、環境負荷の小さい移送手段の活用を推奨する等、バリューチェーン全体でしっかりと手を組み推進していきます。

▶ **多様なステークホルダーと協働し、  
バリューチェーン全体で効果的に。**

こうした取組を継続的かつ効果的に実施し、データに基づきマネジメントしていくことが、短期的な流行や集客にとらわれないレジリエン

トな観光地の基盤を作り、長期的な顧客の定着による地域経済の循環を促し、結果として持続的な地域課題の解決に繋がると考えています。私たちは「兵庫テロワール旅」を通じて地域課題と向き合うことで、SDGs／サステイナビリティに貢献し、“ローカル”で“サステイナブル”なツーリズムを実現します。

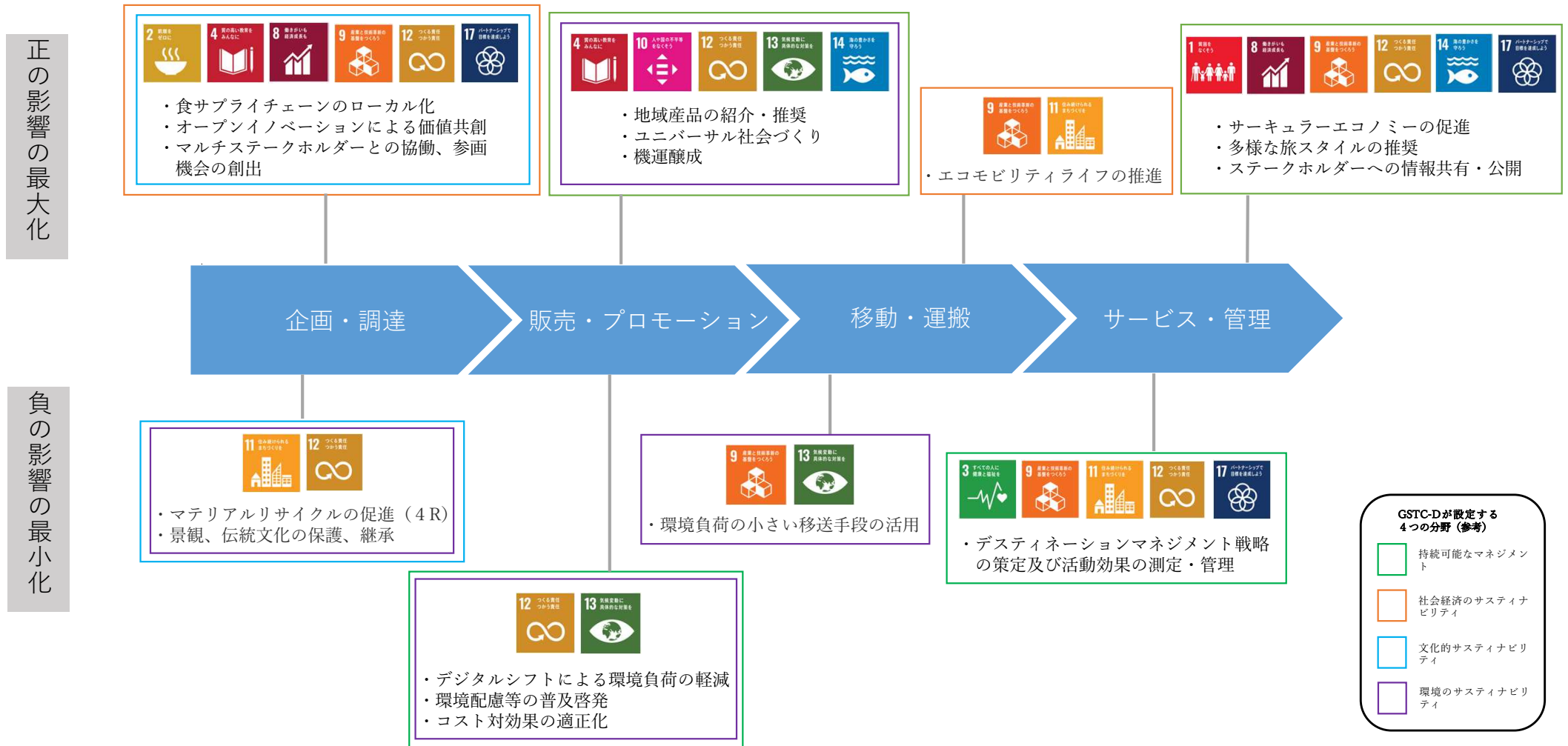
▶ **「兵庫テロワール旅」を通じて、  
SDGs／サステイナビリティに貢献。**



「兵庫テロワール旅」  
を通じて貢献する  
SDGs／サステイナビリティ

# 「兵庫テロワール旅」のバリューチェーンにおけるSDGsマッピング

「持続可能な開発目標のための2030アジェンダ」に基づき、「兵庫テロワール旅」を通じて貢献できるSDGsを可視化。



※観光地域づくり法人 (DMO) として、観光客と地域住民の双方に配慮した「持続可能な観光」に取り組むにあたり、一連の事業活動を価値の連鎖として捉えマッピングにより可視化を行った。  
 ※作成においては「持続可能な開発のための2030アジェンダ (仮訳) 持続可能な開発目標 (SDGs) とターゲット」に基づき、JSTS-D「日本版持続可能なガイドライン」及びSDGs推進本部「SDGsアクションプラン2022」を参考に、「兵庫テロワール旅」に関連する「現在の取組」及び「今後推進する取組」を掲載した。  
 ※SDGsの相互関連性を前提に、主たる貢献目標を記載。

## SDGs／サステナビリティの観点における取組計画

SDGs Value Chain			具体的な取組	GSTC-D 4つの分野 (参考)	目標 (ターゲット)
企画・調達	正の影響を最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>食サプライチェーンのローカル化</li> <li>オープンイノベーションによる価値共創</li> <li>マルチステークホルダーとの協働、参画機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旬な時期に採れる食材を優先し、季節とともに食を楽しむテロワールを提案する</li> <li>コラボレーション事業を通じた地域事業者の参画機会の確保、マッチングによる新たな商品・サービスの創出を図る</li> <li>学官連携事業の促進・県民参画型施策（テロワールlab.等）を実施する</li> </ul>	社会経済・文化的サステナビリティ	 (2.3) (4.7) (8.9)  (9.4) (12.3) (17.17)
	負の影響を最小化	<ul style="list-style-type: none"> <li>マテリアルリサイクルの促進（4R）</li> <li>景観、伝統文化の保護、継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品ロスを減らすとともに、バイオマス等廃棄物の再利用を意識した消費物を選択する</li> <li>テロワール弁当において、環境負荷の小さい包装を選択する</li> <li>観光ガイドの育成・連携を通じて地域資源の価値を伝える取組を行う</li> </ul>	文化的・環境のサステナビリティ	 (11.4) (12.5)
販売・プロモーション	正の影響を最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域製品の紹介・推奨</li> <li>ユニバーサル社会づくり</li> <li>機運醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で採れたものを使って料理を提供し、その地域で味わう食材や施設を紹介する</li> <li>農産物等の地域特産物の購入やサービスの利用を推奨する</li> <li>ユニバーサルツーリズムの視点に沿った観光コンテンツやスポットを提案する</li> <li>アクセシビリティに配慮した情報発信を心掛ける</li> <li>気候変動の影響やDXに関するセミナーを開催し、観光関係者の参画意識を醸成する</li> </ul>	社会経済・文化的サステナビリティ	 (4.7) (10.2) (12.3)  (13.3) (14.7)
	負の影響を最小化	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルシフトによる環境負荷の軽減</li> <li>環境配慮等の普及啓発</li> <li>コスト対効果の適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBやSNSを中心とした情報発信を行うとともに紙媒体については再生紙を利用する</li> <li>広報媒体による旅行者に向けた環境配慮・マナー啓発を行う</li> <li>商品販売に際し、旅行会社に向けた環境配慮等の呼びかけを行う</li> <li>プロモーション効果をモニタリング・検証を行い、訴求効果を最適化する</li> <li>ノベルティ等の配布物については、環境負荷の低い製品を選択する</li> </ul>	持続可能なマネジメント・環境のサステナビリティ	 (12.8) (13.3)

※SDGsの相互関連性を前提に、主たる貢献目標及びターゲットを記載。

# SDGs／サステナビリティの観点における取組計画

SDGs Value Chain			具体的な取組	GSTC-D 4つの分野 (参考)	目標 (ターゲット)
移動・運搬	正の影響を最大化	・エコモビリティライフの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ハイキング（まち歩き）やサイクリングなどのツーリズムを提案する</li> <li>■観光MaaSを導入し、二次交通の不便さや周遊観光におけるアクセス手段不足等、交通手段に関する課題を解消する</li> </ul>	社会経済サステナビリティ	 (9.4) (11.2)
	負の影響を最小化	・環境負荷の小さい移送手段の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■飛行機や自動車に比べ環境負荷の小さい鉄道やバスを使った旅を推奨する</li> </ul>	環境のサステナビリティ	 (9.4) (13.3)
サービス・管理	正の影響を最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキュラーエコノミーの促進</li> <li>・多様な旅スタイルの推奨</li> <li>・ステークホルダーへの情報共有・公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各地生産者に持続可能で適切な収益が巡るような地域経済循環の仕組みを構築する</li> <li>■ワーケーション設備を備えた宿泊施設の情報公開、推奨する</li> <li>■デスティネーションプロフィールの公表（ひょうごツーリズム戦略、観光動態調査）</li> <li>■セミナーやWEB等を通じてテロワール旅の取組情報を共有する</li> </ul>	持続可能なマネジメント	 (1.2) (8.1) (9.4) (12.7) (14.7) (17.14)
	負の影響を最小化	・デスティネーションマネジメント戦略の策定及び活動効果の測定・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■旅行実態（目的・実数等）の調査・把握、観光による経済効果（雇用誘発効果、間接波及効果等）の測定・公開を行う</li> <li>■県内各事業者（ホテル、旅館、貸切バス、旅客船）と連携して感染リスク軽減対策「ひょうご安心旅」の取組を実施する</li> <li>■ユニバーサル受入環境の整備を行う</li> </ul>	持続可能なマネジメント	 (3.3) (9.1) (11.2) (12b) (17.17)

※SDGsの相互関連性を前提に、主たる貢献目標及びターゲットを記載。

私たちが考える  
SDGs／サステナビリティへの  
具体的な取組計画



地域で採れたものを使って料理を提供し、  
その地域で味わう食材や施設を紹介していきます。



自然とふれあいながら、  
和牛のルーツを学ぶ旅を提案。

新温泉町にある「但馬牧場公園」では、地元食材を味わえるだけでなく、“**和牛のルーツ**”として世界に誇る銘牛「但馬牛」を放牧する草原（放牧場）の風景を見学することができます。

さらに、同園内にある「但馬牛博物館」では、但馬種の**系統を維持・管理**するための取組内容や、「牛籍簿」という牛の戸籍を見学し血統の**ルーツを知る**事ができる等、**動物や自然とのふれあいを通じて歴史・文化を学ぶことができます。**

獲れたてを味わい、  
資源の大切さを知る旅を提案。

地元では「香住ガニ」として親しまれ、香住港で水揚げされている紅ズワイガニ。漁獲から水揚げまでの時間が短いため**鮮度の良さが特徴**です。この香住ガニを、単に料理として味わうだけでなく、例えば、**水揚げやセリの様子を見学し**紅ズワイガニの元々の色を知ったり、素材を知り尽くす料理人による調理で“**ホンモノの味**”を体感することができます。

また、漁港では貴重な資源を守るため、資源管理にも積極的に取り組んでいて、**旅をしながら資源の大切さに触れることができます。**





農産物等の地域特産物の購入やサービスの利用を推奨していきます。



イメージ

県食材を使用した食フェア・料理研究会の開催。

県内外のホテルやレストラン等と連携して、「兵庫テロワール旅」のコンセプトに沿った食フェアや神戸フランス料理研究会とのコラボイベントを開催します。  
会場への来訪者に兵庫県産食材の美味しさを届けるとともに、その食材が産まれた地域の雰囲気や「ツウ」な楽しみ方を味わっていただくため、地元シェフやソムリエ、利き酒師等とのコラボイベントを開催し、長期的なファンの獲得を目指します。

ユニバーサルツーリズムの視点に沿った  
観光コンテンツやスポットを提案していきます。



障がい者や高齢者など  
誰もが旅を楽しめる取組を推進。

障がい等の有無や年齢にかかわらず誰もが兵庫県内の旅行を楽しめるよう、NPO法人や地域事業者とともに、**ユニバーサルツーリズムを推進**しています。各地域における普及啓発に加え、ユニバーサル対応した旅行商品の造成などに取り組み、情報発信においてはアクセシビリティに配慮したユニバーサルツーリズム専用WEBサイトで、**モデルコースや観光スポットの紹介、車いすでのアクセス方法等を盛り込んだユニバーサルツーリズム視点の動画**を制作・発信しています。

環境配慮等の普及啓発



広報媒体による旅行者に向けた  
環境配慮・マナー啓発を行います。



広報媒体を通じて、  
持続可能性に配慮した旅行を推奨。

ガイドブックやWEB等広報媒体での発信において、観光資源が有するストーリー（歴史や伝統など）も含めた価値をわかりやすく伝えるとともに観光が地域に与える影響等、意識の向上に資する内容を盛り込むことで、楽しむだけでなく持続可能性に配慮した旅を推奨していきます。

“エコモビリティライフ”の推進

社会経済の  
サステナビリティ



(9.4)

ハイキング（まち歩き）やサイクリングなどのツーリズムを提案していきます。



E-bike等レンタサイクルで軽快に  
地域を巡る旅を提案。

初心者でも手ぶらで気軽に楽しむことができ、  
環境への影響も少なく旅先を堪能する事ができる  
サイクルツーリズムを県内各地で推進しています。  
例えば、阪神間や大阪からも近く自然豊かな北摂里  
山地域では、地元の道を熟知したサイクリングチー  
ムによるガイドの案内付きで、日本一の里山とも言  
われる黒川地域をめぐったり、茶道の湯沸かしに使  
う「菊炭」づくりの見学、地元産のヒノキを使った  
マイ箸づくり体験など、環境負荷に配慮しながら地  
域の特色を味わう事ができる旅を提案しています。

“エコモビリティライフ”の推進



観光MaaSを導入し、二次交通の不便さや周遊観光におけるアクセス手段不足等、交通手段に関する課題を解消していきます。



【但馬】 たじまわる



【淡路】 フラワーリングバス



観光タクシー

二次交通手段の確保、最適な移動ルートを提案。

地域の魅力的なコンテンツを体感してもらうには、交通手段の確保が課題となっています。旅行者の**交通利便性を高め**、移動に伴う負担及び心理的ハードルを下げするため、JR西日本と連携して**観光型MaaSアプリ「WESTER」**での旅行者に応じた**最適な移動ルートの提案**や、**観光バスや路線バス観光タクシー等**との連携によって、域外からの移動及び域内**移動の手段確保**に努め、消費機会の増大、地域経済の循環を促す取組を実施しています。

多様な旅スタイルの推奨



ワーケーション設備を備えた宿泊施設の情報公開、推奨していきます。



“暮らすように旅するスタイル”  
仕事も遊びも楽しめるワーケーションを推進。

テレワークの普及、働き方の多様化を踏まえ、仕事と休暇を組み合わせた「滞在型観光」を促進するため、ワーケーション設備を備える**県内宿泊施設の情報**をWEBサイトで発信したり、働き方の改革に取り組む団体等と協働しワーケーションの**普及啓発**を行っています。

デスティネーションマネジメント戦略  
の策定及び活動効果の測定・管理



県内各事業者（ホテル、旅館、貸切バス、旅客船）  
と連携して感染リスク軽減対策「ひょうご安心旅」  
の取組を実施していきます。



安心安全に旅を楽しめる取組を推進。

ウィズ・コロナ期の安心安全な旅行を楽しんでもらうため、県内宿泊施設や貸切バス、旅客船「感染拡大予防ガイドライン」の内容を踏まえた**感染リスク軽減対策**を実施。各業界団体とともに旅行者向けに取組内容を見える化し、「**ひょうご安心旅**」として発信しています。